保護者様

令和4年10月 7日
横浜市立二谷小学校
校　長　矢島 孝幸

令和4年度 横浜市学力・学習状況調査の結果について

令和4年4月に、横浜市内の2年生から6年生を対象に行われた横浜市学力・学習状況調査について、本校では次のような結果となりました。

教科別学習状況調査結果

ほぼ全教科で市平均並み、もしくは横浜市の平均を上回る結果でした。

【国語】

（通過率 %）

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
二谷小	**67.4**	**66.0**	**69.5**	**64.8**	**57.8**
横浜市平均	67.3	65.6	60.4	61.0	56.4

【社会】

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
二谷小			**75.0**	**71.4**	**74.6**
横浜市平均			68.2	66.5	75.1

【算数】

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
二谷小	**69.1**	**74.9**	**79.5**	**77.2**	**70.8**
横浜市平均	68.3	70.4	71.9	69.8	69.2

【理科】

	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
二谷小			**84.0**	**75.4**	**66.7**
横浜市平均			79.6	71.9	62.8

【本校の傾向】 各教科の観点別学習状況から分析を行った。 「知識・技能」 「思考・判断・表現力」

【国語】

〇全学年、市平均を上回る。

2年生は、「知識・技能」の通過率の方が「思考・判断・表現力」より高かった。3年生以上では「思考・判断・表現力」の通過率の方が高かった。学年が上がるにつれ、学ぶ漢字の数が多くなり、定着が難しくなることも一因と考えられる。漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習の様々な場面で、文章中に漢字を使う指導を行っていく。また、学年が上がるにつれて、「説明的な文章」を正しく読み取ることが苦手になっていく傾向が見られる。「観点を明確にして情報を比較する」内容については、学年によって理解や定着にばらつきがあるので、中学年の段階で丁寧に行う必要がある。

【社会】

〇4年生・5年生が市平均を大きく上回る。6年生は市平均を若干下回る。

どの学年も「知識・技能」の通過率の方が「思考・判断・表現力」よりも高かった。資料の読み取りや、どの資料を活用するかなどを考えたり、判断したりすることがやや苦手である傾向が見られる。今後は、資料やデータを正しく読み取る時間を十分に確保し、根拠を示しながら話し合う学習を進めていく。

【算数】

〇全学年、市平均を上回る。特に、4年生、5年生は、市平均を大きく上回る。

どの学年も「知識・技能」の通過率の方が「思考・判断・表現力」よりも高かった。数、式、統計に比べると、図形（平面・空間）が苦手な傾向が見られる。今後は、具体物操作等の時間を十分に確保し、低学年から図形の特徴を捉える学習を重視して、高学年になるにつれて構成要素を捉えたり、異なる複数の図形の構成要素を関連付けて捉えられたりするようにしていく。

【理科】

〇4年生、5年生、6年生とも市平均を上回る。

4年生、6年生では、「知識・技能」の通過率の方が「思考・判断・表現力」より高かった。5年生は、「思考・判断・表現力」の通過率の方が高かった。4年生は「根拠のある予想」、5年生は「予想や仮説を基に解決の方法を考える」、6年生は「問題や予想から妥当な考えを作り出す」ことを意識できている。今後も、理科的な見方（量的・関係的、原因と結果、時間的・空間的など）と理科的な考え方（3年「比較」4年「関係付け」5年「条件制御」6年「多面的」）を意識した授業を進めていく。「実験器具の名称や使い方」の誤答が多く見られたため、実験では、器具の名称や安全な使い方など、指導すべきことを確実に行っていく。

＊理科支援員の配置（3～6 年生）

【今後に向けて】

全体的に、「知識・技能」の観点において定着が見られた。日々の授業や継続して取り組んでいるスキルタイムや自主学習、家庭学習などでの積み重ねが結果に表れていると思われる。今後も、「知識・技能」の確実な定着を図りつつ、さらに、「思考・判断・表現力」の力を高めていくことを意識した授業改善に取り組んでいく。一人一人に応じた学びを充実させるとともに、友達と学び合い、自分の考えを深めたり、広げたりする協働的な学びも大切にしていく。一人一人に育むべき資質・能力を意識した授業を進めていきたいと考える。